

清流の流れる町 大人も子どもも夢中で川遊びを

坂本 和晃 (さかもと かずあき)
厚沢部町河川資源保護振興会 会長

北海道の南端、渡島半島の南東部に位置する厚沢部町は清流の町とも言われ、市街地を流れる厚沢部川をはじめ、安野呂川、鶉川によって豊穡な大地が形成され、森林に囲まれた自然豊かな町です。その厚沢部町で昭和47年に有志により設立され、様々な自然体験型学習や啓蒙活動を行っている厚沢部町河川資源保護振興会の会長、坂本和晃氏にお話を伺いました。

《郷土の自然を学び体験する》

厚沢部川の水辺環境を生かし、子どもたちが郷土の自然を学び、体験できる場になるよう様々な活動を行ってきました。

近年の子どもたちは、外で遊ぶということが少なくなっていて自然に触れる機会が減っています。せっかく豊かな自然が身近にあるのだから川に親しんでほしいと思い、そのための活動に必要な資格を習得し、カワヤツメやアユの人工受精、飼育体験、稚魚の放流、生き物観察会など、生き物の命などについて考えるきっかけになればと、自然体験型の学習を地元の小学4年生を対象に行っています。最初は魚に触るのも嫌がっていた子どもも学習が終わる頃には平気になり、川遊びをしながら楽しんでいます。

《郷土の自然を守る》

昔から厚沢部町ではカワヤツメを食べる食文化があり、郷土料理として伝承されてきましたが、厚沢部町だけではなく、北海道全体でカワヤツメが減少しているという声を聞き、水産試験場の協力・指導を受けて増殖する活動に取り組んでいます。

毎年7月1日から9月15日の間は、アユ釣りが解禁となり、全国の釣りファンが厚沢部町を訪れ、町の経



済効果に貢献しています。ですが、河川環境の変化によってアユも少なくなってきており、アユの増殖活動も行っています。

そのほかに、アユ釣りをする若い世代が減ってきていることから、小学生を対象に親子での川釣り大会を開催し、アユの友釣りの技術を伝えたり、地域住民の交流のため、町内のイベントでアユの炭火塩焼きを販売しており、アユの炭火塩焼きは、今では夏の風物詩のひとつになっています。厚沢部町のアユは川の水温が低いため脂の乗りが良く、香りもとても良いと大人気で、町の特産品として定着し、地域の活性化につながればと考えています。カワヤツメやアユの増殖活動のほかには、20年以上前から河川美化活動として河川清掃を行い、環境保護にも取り組んでいます。この活動は、厚沢部町の基幹産業である農業にとって大切な水、さらには住民の生活用水としても切り離せない水資源に関わってきます。

《次世代を担う子どもたちへ》

このような活動を長年にわたり継続してきましたが、年々会員の高齢化が進んでいます。ピーク時は120名いた会員が、現在は54名になり、今は会の存続のため、若い世代の入会が大きな課題です。小さい頃から川と慣れ親しんでいると、自然と共存することへの理解が深まり活動に関心を持って参加してくれるのではないのでしょうか。

体験学習での子どもたちの笑顔を見ると、このような活動はぜひ継続していきたいと思います。もっと地元の自然の素晴らしさを体験してもらい、楽しみながら五感で感じ、命の大切さなどを考えられる豊かな心を育む手助けになればと思います。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。



アユを放流する地元小学生の様子